

申請者	診療部	坂本 宏
30	富山県における統合失調症の未治療期間とその転帰に関する疫学調査	
研究の概要	<p>統合失調症では、未治療期間の短縮が予後の改善につながると考えられる。すでに海外では早期の治療介入が試みられているが、わが国では未治療期間の実態すら十分に検討されていない。</p> <p>本研究では、まず、富山大学附属病院および県内の研究協力施設を受診した統合失調症の初回エピソード患者を対象に、未治療期間(精神症状の顕在化から薬物療法開始までの期間)を調査する。同時に、経済状況、家族状況、教育歴、受診経路、発症形式、症状の重症度、認知機能、脳形態、眼球運動、事象関連電位などを調べ、未治療期間に関連する要因の検討を行う。次に、対象患者を前方視的に追跡し、精神症状、投薬量、入院回数・期間、認知機能、社会機能、生活の質などを定期的に評価することにより、未治療期間が経過・予後に及ぼす影響を明らかにする。</p>	
判定	承認	

審議課題一覧に戻る